

平成 31 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■若手研究 2	公益目的事業 19
主査名	三浦詩乃 横浜国立大学大学院都市イノベーション学府研究院助教	
研究テーマ	日本国内における「トランジット・ストリート」のデザイン・運用論	
研究の目的： 内都市の駅前通りあるいはシンボルロードを起点とした、地域内の生活拠点をつなぐ公共交通路線沿いの街路網を想定し、「トランジット・ストリート」計画と運用の可能性について検証を行う。また、街路のハードだけではなく、沿線の建物用途や駐車場誘導のあり方、公共交通の運行頻度や車体の規格・設計などの包括的な観点から、「トランジット・ストリート」のある都市像と、そのデザイン・運用の方法を提示する。さらに方法の実用性を担保するために、関連制度や税の体系についても整理を行い、実現における障壁とそれを克服するための方策案を示す。		
研究の経過（4 月～3 月）： 1)「トランジット・ストリート」の空間像の明確化 国際的な最新状況について、NACTO 会議において情報収集するとともに及び現地視察を行った。NACTO の方針では、オフピーク時のオールユーザーのための環境づくりに重点がおかれる。代表事例の 1 つとされるトロント市の King 通りの視察では、ピーク時には運行間隔に乱れがみられた。 2)国内地方都市における「トランジット・ストリート」該当事例のケーススタディ ①自治体への郵送アンケート調査準備:過去 10 年間の公共交通優先化を含む道路再配分事業の計画実態に関して調査票を作成した。国土交通省街路交通施設課と連携し、回収・分析を行った。その結果、公共交通優先化に関して、検討している都市は少数にとどまることが明らかになった。 ②著名事例へのヒアリング及び現地調査実施:姫路市大手前通りと福岡市明治通り、八戸市中心市街地に対して、整備後の街路運用状況に関するヒアリング、現地調査を行った。 ③中心市街地バス路線データベース:GIS により各都市の多頻度バスサービス区間を抽出し、その特徴を分析した。(学生との共同研究) 3)多分野専門家の意見収集 特に環境配慮型のインフラに対する財源確保手法の観点から、グリーンインフラの専門家（東京農大・福岡准教授）にヒアリングを行った。11 月には土木学会インフラメンテナンス委員会と意見交換を行う。これら、プレヒアリング成果をいかしながら、調査票を作成し、1 月までに専門家に対し、ネットワーク上におけるトランジット・ストリートの位置づけ及びトランジット・ストリートの空間要素[a]公共交通専用または優先レーン、b)交通静穏化、c)信号制御、d)歩道沿い車線(Curbside)の賢い運用、e)結節点のプレイスメイキング)、f)その他：沿線の土地利用のあり方、公共交通の運行頻度や車体の規格・設計]とその優先順位について、意見収集予定である。		
研究の成果（自己評価含む）： 当テーマの成果は共著として、都市計画学会に投稿済、土木計画学論文集に投稿予定であり、目的は概ね達成されたが、今後自治体での実証研究につながるような具体条件の導出については今後の課題として残った。		
今後の課題： 上記の具体条件の導出、その検証		